

大山寺僧坊

大山寺は、かつて 100 以上の僧坊をもつ現在よりはるかに広大な寺でした。江戸時代には、本坊としての西楽院を中心として少なくとも 42 坊ありましたが、1875 年の廃仏毀釈が施行されたことから、この組織は衰退し、現在ではわずか 10 坊となりました。

蓮浄院に、1914 年に、著名な作家・志賀直哉(1883-1971)は宿泊しました。作家自身が巡礼および瞑想を目的として大山登山をした経験をもとに、著名な戦前の小説「暗夜行路」の最終章が執筆されたことが有名です。

近くにある 2009 年に再建された圓流院の天井画は、境港市育ちの有名な漫画家・水木しげる(1922-2015)によって描かれたものです。